

第6回 光駅周辺地区拠点整備基本構想検討会議 会議録

日時：平成31年2月28日（木）18:30～19:25

場所：光市役所3階 大会議室1・2号

【出席者】

- ・委員：13人（代理出席4人、欠席5人）
- ・事務局：副市長（市長代理）、建設部長、都市政策課5人
- ・傍聴：1人

1 開会

● 事務局

会議資料の確認

2 市長あいさつ（代理：副市長）

皆さん、こんばんは。副市長の森重です。本日、委員の皆様方におかれては、大変お忙しい中、検討会議にご出席いただき、ありがとうございます。皆様方には2年間の長きにわたり、光駅周辺地区拠点整備基本構想の策定にご尽力を賜った。貴重なご意見、ご助言をいただき、心より感謝を申し上げます。

2年間、皆様とともに紡ぎ上げてきた本構想の策定においては、皆様方から、この光駅周辺地区の未来に大きな果実となるたくさんの種をいただいた。

今後、本日のこの会議でご協議をいただいた後に、現在開会中である市議会にも基本構想を報告させていただく予定である。また現在、平成31年度の予算を提案しているが、4月以降、基本構想の具体化に向けて取り組むこととしている。今後、基本構想の具現化にあたっては、さまざまな困難があると認識しているが、皆様方の英知により、基本構想に掲げられた一つ一つを着実に事業化していくことが、我々行政に課せられた責務だと思っている。財政的にも非常に制約を受けることが予想されるが、基本構想の具現化が、本市の玄関口である光駅周辺のまちづくりはもとより、光市全体のまちづくりの核になるものと考えている。

結びに、本検討会議の会長を務めていただいた鶴先生、副会長を務めていただいた目山先生のごこれまでのご労苦に対して、厚く御礼を申し上げますとともに、委員各位に御礼を申し上げ、お礼のあいさつとさせていただきます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

3 会長あいさつ

皆さん、こんばんは。本日は第6回目の検討会議であるが、当初、どういうものが基本構想なのか、というところから皆さんと議論を始めて、このたび概ね皆さんが合意できる基本構想として着地できるのではないかと、会長として少し安堵しているところである。

駅周辺ということで、これまでの6回の議論を通して、駅周辺の重要性や、市民の皆さんが駅の将来に望む機能や将来像、また、周辺エリアにどういった波及をしてほしいか、といったことが、非常に鮮やかに炙り出されたのではないかとと思っている。それらを含め、（光駅周辺地区の）将来像を共有できれば良いということも、基本構想において示されたのではないかとと思っている。

先ほど、副市長からもお話があったように、ステップ・バイ・ステップで少しずつ積み上げていながら、基本構想が実現されるよう、取り組んでいかないといけないと考えている。また、もう一つ、シンポジウムの際に（明治大学副学長の）小林先生からご指摘があった、エリアマネジメントなどのソフト面の取組みは、空間を活用していく上で重要であり、ハード整備と併せてソフト面も含めた考え方により、光駅周辺地区が将来的に発展し、市民のための空間や機能が集積していけばよいと考える。終わったようなことを申し上げているが、今日が最後ということで、もう一度議論しないといけない。どうぞ、よろしくお願ひしたい。

4 議題

光駅周辺地区拠点整備基本構想（案）について

● 会長

それでは光駅周辺地区拠点整備基本構想（案）について、事務局より説明をお願いしたい。

● 事務局

<事務局から「光駅周辺地区拠点整備基本構想（案）」、「参考1 前回会議（12/11）からの主な修正点 新旧対照表」の資料に基づき説明>

● 会長

ただいま事務局から説明を行なった内容について質問等あるか。

● 委員

内容については齟齬がなく、これで良いと感じているが、（計画書として）丁寧にするために、いくつか提案をさせていただく。

1つ目は、「はじめに」（表紙裏）のところに日付を入れないのか、ということ。これをいつ言ったかということはとても大事なことだと思う。

2つ目は、この検討会議を通じて策定してきたので、委員名簿を付けた方が良いと思う。委員の名前を出すかどうかは別にして、公募委員も含め、色々な属性の方の参加のもと出来上がっているので、名簿はあったほうが良いと考える。

3つ目は、専門的な言葉が出るレポート（計画書）には、用語集が付いていることが多いが、今回は付かないのか。もし、付けられるのであれば検討会議に諮るまでの必要はないと思うが、駅関連の用語は専門的な言葉が出てくるので、用語集を付けた方が良いと思う。

また、駅周辺地区の定義は非常に分かりにくく、光駅といえばこれを指し、光駅周辺地区といえばこれを指すというようなものが必要では。一応500mというのは出ているが、丁寧にするのであれば、そういったものが巻末にあれば良いと感じた。

● 事務局

いくつかご指摘をいただいた。最終的に策定するまでに、委員の名簿や用語集を含め資料編の検討をしたいと思う。「はじめに」の日付については、策定後に入れたいと思う。

● 会長

概ね今ご指摘のあったことについては、そのように対応するという事で良いか。

● 事務局

1点目の「はじめに」の日付についてである。私どもの計画類によくあるパターンとして、市長の顔写真入りのあいさつ文を載せることが多く、その場合には日付や市長の名前を入れるが、このたびは、市長あいさつというよりも名前の無い「はじめに」として整理している。

日付については、表紙に「平成 31 年 3 月」とお示しすることを考えているので、ご理解いただきたい。

● 委員

それで結構である。

● 事務局

委員の名簿については、最終的には検討会議の設置要項と委員名簿を巻末に付けたいと考えている。

● 委員

わかりました。

● 会長

では、そのように対応をお願いします。あと、資料については、カラーであるべきところが白黒になっている箇所もあるので、フルカラーで統一していただきたい。

● 委員

基本構想をつくった後、どのようにされるのか。たとえば誰に配布されるのか。市役所で希望者に配布するのか。

● 会長

今後のこともあるので、基本構想がどのような扱いになるのか、どのような流れになるのかを説明いただけるか。

● 事務局

基本構想については、今後のステップのベースとなるものである。策定した後は、委員の皆様はじめ関係者の皆様にお配りしたいと思っているし、市ホームページなどにも掲載し、広く市民の皆様に見ていただける形をとろうと考えている。

● 会長

今回基本構想の次に基本計画が待ち構えていて、基本計画を進めていく上で、これが皆で合意しましたよ、という確認の文書でもあると思う。市議会や市民の皆さんも含めて、ここまで皆で合意したものがありませんよ、これをベースに基本計画に着手しますよ、という一つの宣言文になると思う。これを広くオープンにして、共有していただくことが大事なプロセスであると思うので、よろしく願いしたい。

● 委員

34 ページ。Bの「南口駐車場・駐輪場を中心としたエリア」のところに、「民間活力の活用も視野に」ということが書いてあって、恐らくここに利便性を高め、まちの課題を解決するような施設の整備を視野に入れておられると思う。このようなとき、官が決めて民がやるということが多くあるが、失敗するケースも多々ある。しっかり“需要と供給”を民の方からも提案できるような形、単に「民間活力の活用も視野に」ではなく、投資した分、回収できる施策を打つ必要があると思う。何らか、そういったリスクを把握してやるというような表現があったほうが良いと思う。

また、BとCというのは、一体的なエリアなのかなという気がしている。光駅の駅前広場は広いという気がしていて、駅前広場のところも民間活力の活用ができるのではないかと思う。行政の仕事は敷地主義のところがあるので、本当にどこが有効なのかということ、整理してやっていただきたい。

● 会長

具体的には、どのように修正するのが理想的とお考えか。Bの「民間活力の活用も視野に」を、例えばどのように変えるのが良いか。それと、BとCを分けたいほうが良いということか。

● 委員

Bのところは、駐車場として敷地があるので、その上（上空）を使えばということだと思うが、「需要と供給のバランスを確認して」というような文言を入れてはどうかと思う。

Cについては、取組みの一例で、どちらかといえば交通系の使い方になっているので、商業系のことも書ければと思う。

● 会長

④の「多世代が交流・滞在できる空間の創出」では弱いということか。

● 委員

弱いと思う。もう少し「駅前機能の拡充」といったことが書けないかなと思う。将来的には、現在あるホテルとか、今はそこまで書けないかもしれないが、Cのエリアが広がったところの活用も視野に入れたことが書けないかと思った。

● 事務局

まず、BとCのエリアについて、楕円形でざっくりと書いているが、構想策定の次のステップでは、Aだけ、Bだけ、Cだけという考え方ではなく、ABCの一体的な計画づくりに移ってまいりたいと考えている。であるので、“Bに民間という言葉があるがCにはない”というようなことは、あわせて考えていくということで、ご理解をいただきたいと思う。

「需要と供給」というご提案もいただいた。35ページの第6章2の中に「民間活力を活用した多様な事業手法や試験的な取組み」という記述をしているが、ここでは「サウンディング調査」といったことを想定している。研修会にも職員を派遣しているが、そうした（サウンディング調査などの）機会を通じて需要調査も視野に入れながら取り組んでいきたいと思っている。

● 会長

1点目の民間活力の活用のところに「需要と供給のバランスを確認して」というところまであえて書かないといけないうか。民間を使うということは、それがすなわち需要と供給がないと民間は参入してこないの、「民間活力の活用」ということは、ある程度需要と供給のバランスを把握することが前提ではないだろうか。35ページの第6章の2の記述のところで、意図は伝わっているのでは。

BとCを分けていることについて、AとBは純粋に市有地であり、一方で、CはJRと市の共有である。それと、現在、都市計画決定をしているのはCだけで、Bはしていない。法定とそうでないものという視点からもBとCはゾーン分けされていると私は理解している。また、Cの周辺の民有地を取り込むようなことを書くのは、現時点踏み込みすぎではないか、ということもあってA・B・Cという枠を決めて、可能な範囲の記述にしていると思う。難しい判断の中でこういった記述にしていると思う。いかがか。

● 委員

私は会長の意見に賛成する。というのは駅前広場イコールCではない、駅前広場を含め回りのエリアも入れてCというゾーンにしているの、結局その意味付けは、駅前広場は丸く

ないことを考えると、ジワジワっとした部分も入れたいので、こうした記述をしている。

周南市の徳山駅では現在、駅前広場を整備中であり、整備がなされた後には公開空地がたくさん出る。その公開空地の使われ方について質問したことがある。一般の人がイベント等で使うことは可能か、という質問をしたところ、そのための条例を作ろうとしているとのことであった。都市計画決定をされている交通広場であるはずの駅前広場の中で何かやろうとしたら、そういう仕組みを作る必要があるので、(光駅においても)将来的にそういうこともイメージできるとすれば、駅前広場イコール公共物というイメージではない。作るのはインフラであるから公共がつくるけれども、その上で行われる活動はある程度自由度がある。そこまで読み解く必要があるかどうかはわからないが、今の構想段階ではいいのかなと思う。基本計画で線が引かれると、そのあたり変わってくるのかなと私は理解した。

● 委員

成功例もたくさんあるが、失敗例も多くある。しっかりとお金が落ちる形にしてほしいという思いを持っている。このあたりは言っておきたかった。

● 会長

そのあたりは議事録にしっかりと残しておくとして、ここで(先ほどのご意見のような)記述はできないと思うので、基本計画のところで、事業手法や財源についてしっかり議論をする、また、楢円の滲み出しの部分も含めた敷地の権利関係も出てくるので、そういったところを次のステップで明確に議論していただくということで、今のご意見については対応させていただけないか。

● 委員

この冊子が市民はじめ色々な方々に見ていただくと聞いたが、冒頭の目的のところは文章になっていて、とてもわかりづらいと思う。目的は、これからの取組みの中でブレてはならない一番大事なところだと思う。例えば23ページの方向性は絵を用いてわかりやすく書いていると思うが、この冊子がよりわかりやすく魅力的になるためには、文字よりも絵的なもので伝わりやすくし、立ち戻れるような、そんな基本構想になればよいと思う。目的が端的にわかりにくいと感じた。

● 会長

図を用いるなどして、少しわかりやすくしたほうが良いというご指摘と思うが、事務局いかがか。

● 事務局

私どもの良くないところであるが、いろいろ書き過ぎてしまって、読まないとわからないということになっている。23ページのようにイラストがあると視覚的にもシンプルでわかりやすいのではないかと思う。この部分については、現時点どういった対応ができるか申し上げられないが、少し、イメージというか、イラストというか、わかりやすくする工夫を、最終段階にはなるが、してみたいと思う。

● 会長

するどい質問だと思う。ご指摘のとおり、文章を読んでもわかりにくい。基本構想が一目でわかるようなものがあったら良いと思う。誰にでもわかりやすいビジュアルのものがあると、意義が伝わるのではないか。検討をお願いしたい。そういう対応でよろしいか。

● 委員

よい。

● 会長

そのほか何かあるか。

● 委員

33 ページ。「施策ごとの事業主体区分」の2重丸と丸の違いはどこかに位置付けられているか。類推すると2重丸は事業主体、丸は連携相手ではないか。市も民間も主体になるものもあれば、「安全・安心」のところのように、全部市が主体になっている。ここは、安全・安心はインフラであるから民間に委ねるものではないというところが端的に出ている。2重丸と丸の説明をどこかに入れてほしい。

● 会長

凡例がないのはご指摘とおりですね。加筆をお願いする。

● 事務局

わかりました。

● 会長

そのほかあるか。

⇒意見なし

それでは、皆さんからの意見は出尽くしたので、この基本構想（案）について、委員の皆さん方のご了解を得たということにしてよろしいか。一部修正があったところは、事務局と私に一任していただくということで、よろしいか。

⇒異議なし

ありがとうございます。それでは、この基本構想案について検討会議として了承し、今後の作業を進めさせていただく。

5 その他

● 事務局

来年度以降の取組みについて、現時点、予算案の段階ではあるが、ご紹介をさせていただきます。

来年度から、早速、基本構想の具体化に取り組んでいく。駅舎を含む光駅南北自由通路及び南北の両駅前広場の整備に向けた基本計画の策定に着手する。これまで策定してきた基本構想は、光駅を中心とした半径約 500 メートルのまちづくり全体の方向性などを示すものであり、一方、この基本計画は、基本構想でお示しした短期の取組みについての部分についてクローズアップして具体化するものである。具体的に申し上げれば、将来構想図の中にあるA・B・Cと南北をつなぐ矢印の部分について、具体的な施設や整備レイアウトなど、目に見える形で整備後の姿を描いていく作業になる。平成 32 年度までの2か年事業として、JR西日本さんと一緒になって、まずはこの基本計画の策定にしっかりと取り組んでまいりたい。

この基本計画後は、具体的なスケジュールは未定であるが、基本設計、実施設計等整備に向けた具体的な計画の策定や都市計画決定などの諸手続き、そして、ソフト面も含めた事業化の検討を着実に進めてまいりたいと考えている。

また、(本会議のような) 意見聴取機会については、現在、適切な手法を検討中である。ご意見等をしっかりとお聞きしながら取り組んでいきたいと考えているので、このあたりは、決まり次第、広報やホームページなど、何らかの形でご案内したいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

● **会長**

ただいまの説明に対して、何かあるか。

⇒意見なし

それでは、事務局にお返しする。

6 閉会

● **建設部長あいさつ**

委員の皆さまには、この2年間、本当に熱心なご議論をいただき、ありがとうございました。それぞれのお立場から、専門的なご助言や、未来を見据えた大局的なご意見、一(いち)利用者としての身近なご提言など、幅広い視点から多くの貴重なご意見等をいただいた。これまでの会議の内容は、議事録として公開しており、いただいたご意見等はこれでおしまいではなく、今後の具体化の検討にあたって、しっかりと参考にさせていただくことをお約束する。本会議は、これをもって終了となるが、光駅周辺地区拠点整備事業は、今後も息長く続いていく。特に、来年度、再来年度は、先ほど担当が申したように、駅舎を含む南北自由通路と両側の駅前広場について、具体的な整備レイアウトを検討する基本計画の策定に取り組むなど、整備の肝となる重要な局面を迎える。これからも、段階ごとに情報をしっかり開示しつつ、また、引き続き、様々な形で、ご意見等をいただきながら取り組んでいきたいと考えている。皆さま方には、引き続き、本事業を温かく見守っていただくとともに、今後ますますのお力添えをお願い申し上げ、私のあいさつとさせていただきます。2年間、本当にありがとうございました。

● **事務局**

本日の会議を終了する。